

法堂（教えを説くためのお堂）

法堂（教えを説くためのお堂）は高さが 20 メートルあり、建長寺では最大のお堂であるだけでなく、関東地域で最も大きな木造建築となっています。

法堂はそもそも建長寺の住職が寺の僧侶らに説法を行うために使われていました。当時、部屋奥にある高座は仏や仏像のために使われていたわけではありませんでした。その代わりに、住職がその上に立って、集まった聴衆に話しかけていたのです。

現在では法堂は説法にはもう使われていませんが、公の式典や、コンサートやアートショーなどといった特別なイベントを催しています。祭壇の後ろにある像は千手観音です。

法堂は 1814 年に再建されており、重要文化財に指定されています。